

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500038		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム恵寿		
所在地	岐阜県中津川市中津川字子野950-25		
自己評価作成日	平成25年8月10日	評価結果市町村受理日	平成25年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500038-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年9月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所5年目となりました。建物や庭はご利用様が安心して生活して頂けるように、認知症ケアを実践してきたノウハウを活かし、認知症症状が少しでも緩和できるようになっています。またスタッフは法人独自の研修を行ない「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」を目標に、ご利用者様やご家族様に満足して頂けるような良いケアを目指し取り組んでいます。そして地域の一員として交流の場を設けたり、地域の方々から認知症という病気を理解していただけるように日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が所在する地域は、高齢化が進み、若者が減少している。その環境の中で、毎年取り組む夏祭は、地域と連携した一大イベントであり、盛大に開催している。敷地内の東家は、利用者・職員が、気軽に散歩し、休む場所となっている。さらに、地域の福祉相談窓口としての役割も担い、地域に密着し、地域から期待される事業所である。目標とする支援は、利用者のストレスや情緒不安からくる、認知症の症状を緩和し「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を、全職員が心を一つにして取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安 なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念である「尊厳のあるその人らしい穏やかな生活」をご利用様が送れるよう全職員がそれを共有し、実践するよう努めている。理念の意味を正しく理解できる様に新人研修などでも説明している。	「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」を理念とし、研修などで確認し、共有している。地域との関わりを大切に、利用者が尊厳を持って、その人らしい暮らしができるように実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として防災訓練や夏祭りなどの行事に参加し、日常的に交流している。庭の東屋はコミュニケーションの場として設置されており、また、散歩時には、地域の方々への挨拶などでコミュニケーションの働きかけをしている。	地域の草刈りや清掃作業などに参加している。ホームの夏祭は、地域の行事として、取り組んでいる。学生の研修も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に関する講演会などに取り組み、地域の方に認知症への理解を深めていただける機会を作っている。地域の区長とも連絡を密にし、施設のスキルを活かせるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を二ヶ月に一回開催し、行政・区長・副区長・民生委員・家族の代表などの出席を得ている。そこで施設の近況・地域行事・防災対策などを話し合い、それらの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は隔月に開き、行政や区長、地域関係者が参加している。運営報告、行事の提案に対し意見交換をしている。地域行事の扱いや位置づけ、認知症の学習会の要望等を検討し、運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会、グループホーム部会、ケアマネ部会などに出席し、市の担当者とも連携がとれている。子供110番の家への取り組みや、二ヶ月に一回の介護相談員も受け入れている。	市の介護相談員や子ども110番の受け入れなどで連携している。行政主催の研修会やグループホーム部会では、情報を交換している。市の担当者とは、日常的に連絡を密にとり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ、身体拘束はしていない。「禁止の対象となる具体的な行為」を理解しながらケアに努めていきたい。	研修やマニュアルを基に学習し、身体拘束ゼロを実践している。また、言葉による心の拘束について、接遇研修を行い、全職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時に虐待防止に関する研修を実施しているが、入社後も継続的な虐待防止への意識を促している。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネ部会などで学ぶ機会を得ているので、その知識をスタッフへ伝達する機会を持ち、ご利用者様のケアに生かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり、契約内容や制度等の説明を行ない、理解・納得していただける働きを行なっている。また、契約後も定期的に連絡を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に関するご利用者様、ご家族様の意見は、面会時や電話連絡等で伺った意見・要望等や運営推進会議等の意見を運営に反映させている。	家族の訪問時や電話等で意見、要望を聴いている。年4回の「恵寿だより」に利用者の状況を手書きで記入し、家族の要望を聴いている。家族からは、簡単な体操の実施、難聴者に配慮した対応の要望があり、速やかに改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員は責任を持って業務を分担し、それぞれの意見を管理者等が把握できるよう時間を設けている。また、定期的に面談を行ない意見を把握し、運営に反映させている。	定期的に職員の意見を聴く場を設けている。勤務体制の調整と働きやすい環境づくりの提案があり、改善している。また、食事介助や服薬管理の取り扱いなど、意見・提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の力や人間性を把握し、その職員にあった業務を任せている。個々の努力や勤勉状況を認めそれに見合った地位を任せたり、行事等の責任者にして職員が仕事にやりがいを持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社独自の研修プログラムを作成し、個々に合わせた研修に取り組んでいる。又、プログラムについても定期的に見直しを行ない、サービスの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中津川市グループホーム部会の定例会議や研修会、勉強会等で交流やサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の相談は、ご本人様が話しやすい雰囲気を作り、困っていること等をよく聞いて信頼関係作りに配慮している。入居後もご本人様の不安な気持ち等を汲み取り、よりよい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事前見学をして頂いたり、入居相談表を使用しご家族様からの情報を細かな部分も聞き取り、受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの導入時には、問題の中からその時の優先順位を見極めてサービスの提供を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり流れる生活の中で、人生の先輩であるご利用者様から教えていただくこと、一緒に楽しむことなどで、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様の絆を大切にして、必要に応じてご家族と連絡をとりながら面会等に来ていただき、スタッフと共にご利用者様を支えていただける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が、今まで大切にしてきた馴染みの家具や食器などを持ち込んで頂いたり、馴染みの美容院、友人や親戚の方などとの関係が、途切れないように支援に努めている。	同級生、友人、親戚が訪問し、馴染みが継続している。家族の協力で、美容院や外泊など、馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に全員が心地よく生活できるよう、席の配置には気を配っている。ありのままに生活をして頂くようにしているが、様子を見てさりげなくご利用者様の関係調整に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後については、ご利用者様の状況に合わせてご家族様と連携を取るよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様一人ひとりの生活暦を把握し、ご本人の希望や意向などを汲み取れるよう、センター方式を活用し情報を共有しながら、ご本人の意向を汲み取るよう努力している。	入居前の事前調査で、基本情報を確認したり、また、普段の会話や個別ケアの場で、一人ひとりの思いを把握している。個々の思いや希望は、個別ノートに記録し、暮らしの中で活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や在宅のケアマネからの情報も含め、ご本人様の生活歴や環境の情報収集を行なっている。入居後もご本人様、ご家族様からの情報を随時把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化するご利用者様の状態に応じて対応できるように、スタッフ間で情報を交換しながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中で、ご本人様の表情や言動の原因把握に努め、意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成し、モニタリングを行ないながら現状に即した計画になるよう努めている。	日常の申し送りノート、介護記録を基に、職員で話し合い、利用者、家族、専門職の意見を含めて、介護計画を作成している。常にモニタリングを繰り返し、課題があれば、柔軟に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子や、ケアの実践、記録の中から、気付いたことをスタッフと話し合ったりして、介護計画に反映、または社内の症例発表会などに繋げたりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の決まりに縛られてしまわないで、ご利用者様、ご家族様のニーズに柔軟に対応できる様に取り組めるように努力したい。喫煙、飲酒などへの支援等。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアにも定期的に入っていたり、民生委員を通して、地域のお年寄りとの交流を持っていたりするような取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご利用者様、ご家族様によりかかりつけ医を選択していただき、ご家族様による通院が基本となっている。協力医療機関の先生には施設のご利用者様の状態を把握していただき、通院にはスタッフが付き添っている。	入居前に、かかりつけ医については、協力医、かかりつけ医の継続は自由に選択できることを説明している。通院受診は、原則家族の役割であるが、緊急時や家族の都合が悪い場合は、柔軟に対応し、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	7月より看護師が常勤となり、ご利用者様の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様の現状と今後の予測できる状態について、病院関係者と情報交換や相談等の連携に努め、早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期に向けた方針の共有について現在文書化し、体制作りに努めている。	契約時に重度化や終末期について、事業所の指針に基づき説明をしている。早い段階で関係者が話し合い、24時間体制の看護師との連携ができています。終末期の支援は、家族の希望があれば、関係者で協力体制を検討し、受け入れが可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備えて緊急時対応表を掲示している。また、防災訓練時に、三角巾の使い方などの応急手当や急変時の心配蘇生法などの訓練を行なっている。今後も外・内部の研修で実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との合同での訓練と、施設独自の訓練を行い、災害発生時の対応は今後も強化していきたいと考えている。また、発電機も施設内に設備し、いざというときに地域でも使えるように備えている。今後もスタッフの災害に対する意識強化を目指したい。	年に2回、火災訓練を実施し、地元の協力も得ている。連絡網、初期消火、避難場所など、実地訓練をしている。備蓄の確保と、定期に確認も行っている。地元の防災訓練には、代表者が参加し、相互協力の役割について、意識の強化を図っている。	火災を含め、地震・水害についても、想定される課題として、地域との意見交換に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの誇りやプライバシーに注意し入浴時や排泄介助時などには羞恥心に配慮した声掛けや対応をしている。個人情報にかかわるもの(記録・データ等)の扱いはルールを徹底し、スタッフに周知してもらおう努めている。	人生の先輩としての尊厳を守り、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底している。また、接遇についての研修を重ねている。個人情報保護に向け、関係書類の取り扱いなどは、厳正に管理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様一人ひとりの力に合わせた働きかけをし、出来る限り自己決定をしていただけるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの業務スケジュール以外は作成せず、散歩や余暇活動、畑作りや入浴時間など、ご利用者様一人ひとりのペースを大切にするケアを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご希望者様には昔から馴染みのある美容院等に行けるように段取りを行なっている。中にはご家族様に散髪してもらっていたご利用者様もみえ、そういった方にはご家族様への連絡・調整を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビング内のキッチンでご利用者様にできることをやっていただきながら一緒に食事作りなどをしている。ご利用者様一人ひとりの好みを把握し、好き嫌いには必要に応じて好みの物を用意するなどして柔軟に対応している。	食事時間を限定することなく、個々に合わせた支援をしている。利用者の希望を受け入れ、同じ食材でも手を加え、好みに近づけている。職員も同じテーブルで、食事を楽しんでいる。利用者は準備、後片付けなどを共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、その都度記録に残すようにし、個人の摂取量を把握している。また、一日を通じて確保できていない場合は好みの補食を用意したり、スポーツドリンクやゼリー等で品を変えて柔軟な対応を心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを必ず行うようにしている。ご自分で歯磨きを行える方に関しては、ご自分でやって頂くようにしている。また、治療が必要な場合や義歯に不具合があった時などは協力歯科医に診察をお願いしている。		

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様の排泄時のサインを見極め、一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握しケアに活かすようにしている。それにより、パットや紙オムツの使用量を減らし、自立に向けた支援を行なっている。	個々の排泄パターンを職員間で共有している。サインを見逃すことのない、細やかな対応をしている。その結果、おむつの減少につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方に関しては水分摂取を積極的に促したり、繊維の多い食品を食べていただく等の工夫を行なっている。場合によっては医師や看護師と相談をし、薬を処方して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の頻度や時間は一人ひとりの希望にそって入って頂くように心掛けている。入浴がお好きでないご利用者様に対しては、声掛けを工夫したり時間をおいてタイミングを計る等して気持ちよく入浴していただけるよう支援している。	利用者の希望に添った入浴を支援している。個浴を楽しんだり、身体機能に合わせた入浴を提供している。入浴を拒む人には、タイミングを図り、抵抗感を和らげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間だけの睡眠時間を見るのではなく、昼間を通してご本人様のペースにあった睡眠時間が取れているか確認をしながら支援をしている。睡眠場所についても、その都度ご本人様の要望を確認して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員が服薬内容を把握しており、服薬状況の確認は徹底している。また、薬の種類や作用、副作用などがいつでも確認できるように処方薬一覧表を作成しファイリングする等の工夫をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様一人ひとりの生活歴や趣味等を把握し、生活の中でそれらを活かせるような役割分担をすることで楽しみや自信に繋がるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望のある方に関しては、頻回に外に散歩に行っていたりできるようにしている。しかし、普段外に行かない方も声掛けを行うようにし、外での気分転換を図るよう援助したい。買い物や、ご家族様に協力を得た外泊なども行なわれている。	毎朝、ゴミ出しに行き、そのまま近くを散歩している。重度者は、庭内を歩いたり外気浴で過ごしている。遠方への希望者は、家族の協力を得て、季節の花見や紅葉狩りなど、年間計画で支援をしている。	

岐阜県 グループホーム恵寿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理をさせて頂き、定期的にご家族様に確認をして頂いている。また、希望時に一緒に買い物に行く等対応している。自己管理を希望される方には財布に小額のお金を入れ持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りをされるご利用者様の支援を行なっているが、電話などのご希望が出た場合には対応していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花や行事を取り入れ、季節感を感じられないご利用者様にも楽しんでいただけるよう工夫に努めている。共用空間についてもご利用者様の状況に合わせ生活用品の配置を変え居心地よく過ごしていただけるように工夫をしている。	共同の空間は、空調設備も整い、広く明るい。高台に立地する建物の窓からは、自然の景観が全方向に広がっている。空間の要所に椅子があり、利用者同士が語り合っている。季節の花や手づくり作品もあり、居心地よく過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間ではあるが、ご利用者様一人一人が安心できる場所や、お一人になれる居場所の工夫に取り組んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れた物を持ち込んでいただくよう伝えていることと、その人の好みを活かした居心地のよい部屋作りを工夫している。	各居室に、広いクローゼットがあり、部屋の整理整頓ができています。使い慣れたタンス、整理棚が、機能的に配置している。思い出の写真などを飾り、心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりの一つとして、薬品庫やスタッフの通用口など、ご利用者様が出入りできない場所の扉は廊下の壁と同じ色調にしている。また居室入り口には、ご利用者様の表札をつけるなどして迷われないような環境づくりを心がけている。		